

(2) 食品輸出の期待と現実

東日本大震災とそれに絡む東電福島第一原発の放射能もれる故による被害の拡がりは、国内だけに止まらずに世界が注視する大事件と化しています。特に放射能の拡散による農産物の出荷停止措置の話題は、日本製食品を信奉するアジアの人々に大きなショックを与え、日本からの食品輸入にブレーキがかかってくるのは間違いないと思います。事実、香港では、日本から輸入されたハウレンソウなどから香港の安全基準の最大10倍に達する放射性ヨウ素が検出されたと発表し、福島・茨城・栃木・群馬・千葉の5県産の野菜や果物・乳製品を輸入禁止としました。又、アメリカや韓国などでも4県からの食品輸入禁止を検討しているとも云います。一方、中国では、大連空港で放射線量が基準を超えたとして、全日空の航空貨物が日本へ送り返されたり、ドイツの輸入業者から受取拒否されるなどの通関トラブルも目立って過剰ともみえる反応が出始めているようです。

香港では、日本食の人气が高く、日本からの食品や食材輸出の約1/4は香港で、2位の台湾の2倍に達するお得意さんということで、その影響は大きいと云わなければならないでしょう。そして、中国だけでなくシンガポールを始めとする東南アジア諸国との関係は輸出入を併せて深刻に考えなくてはならないと思います。国内の消費需要に行き詰り感のあるなかで食の輸出への期待は、産地自らが求め開拓してきたものであり、日本産農産物や食品に対するイメージや信頼性の高さが売りであるだけに、早急に相手国の不安感を取り除いてやることが緊急の課題として、のしかかって来ると思います。何処の国・地域で生産されたものよりも、日本で生産された野菜や果物・食品は安全であり、安心出来るものであるとの評価は決して幻のものではないはずです。

農産物の輸出国として知られるニュージーランドは、農薬の使用状況など生産現場の状況ばかりでなく、運送や保管などについても厳密な管理体制を敷いており、輸出相手国の要求に万遍なく対応出来る法体系も整っているということです。そうした観点からみた場合の日本での仕組み作りは如何ばかりでしょうか。食品の安全基準に関しては消費地で事故が起きた際には、声高かに騒がれますが、思っているほど厳しく管理されていないようです。いくら日本の農産物は高品質であると言っても、評価そのものはイメージにしか過ぎないかもしれません。貿易に付きものの通関や検疫でのトラブルを回避するためにも、相手国が認める日本での仕組み作りが食品輸出の前提として為されなければならないのではないのでしょうか。

(鈴木重雄 筆)